

鳥羽野田園コース



『とうもん』とは、「稲面(とうも)」または「田面(たおも)」に由来するといわれる言葉で、南遠州中央の山と海との間に広がる1,000町歩(ha)の広大な水田のことです。視界をさえぎるものがなく、抜けるような青空がどこまでも続き、見渡す限り広がる広大な『とうもん』は、遠州人の原風景となっています。

よって! ポイント



しょうしゅうじ
松秀寺
正式名称は、竜富山松秀寺(りゅうぶざんしょうしゅうじ)。早朝に参拝すると、足が丈夫になるといわれていることから、地元では、朝観音と呼ばれ、親しまれている。松秀寺は、笠原の五十岡龍竜巢院(いごかりゅうそういん)の兄弟寺で、1501年(文亀元年)に大易正甫(たいえきしょうほ)によって開かれた。正甫は、占いに導かれ、西南の方向で大松の生えている土地に、寺院を建立することを誓い、その条件に合う土地を探したところ、現在の土地を得たそうです。寺の門前に生えていた老松にちなんで山号(さんごう)・寺院の名の上につける別称を付けたといわれている。



松秀寺の弁天池
門前の弁天池畔に生えていた老松から寺号を付けたという。スイレンの花が見事。

